

やまゆり

学校だより

令和5年1月27日
81号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」・「豊かな心の育成」

「いじめサミット」の学びを1・2年生に報告しました

昨日1月26日(木)の5校時に、いじめサミットに参加した3名の生徒会役員が、1・2年生に報告をしました。北海道から沖縄までの約120名の小中学生と交流した体験を通して学んだことや感じたことを伝えました。一番の学びは、「他校の中学生からの刺激」だったと思います。

具体的な学びの内容を、3人で分担し、情熱をもって伝えることができました。

また、その後1・2年生でいじめ防止に関わる「自助・共助・公助」について意見を出し合いました。いじめは命に関わる人権侵害です。一人一人の個性や能力を發揮し、集団として高め合う活動をも侵害します。学校生活での安心・安全は教育活動の基盤であり、その基盤が盤石であるほど豊かで、高いレベルの教育活動ができます。

生徒会執行部役員や生徒会顧問の先生方の努力によって、より良い道志中学校を「創造」する活動をこれからも展開し、社会にも貢献していきたいと思います。

「全国いじめ問題子供サミット」の学びの報告



全国いじめ問題子供サミットの生徒の学び

○全国いじめ問題子供サミットについて

いじめサミットは文部科学省が主催し例年1月に開催している。子供たちが自らいじめ問題を主体的に考え、将来のいじめ問題に係る取り組みを支えるリーダーを育成するとともに、全国各地での多様な取り組みを一層推進することを目的としている。

○一日の内容について

全体会が終わった後、各学校でのポスターセッションがあった。道志中学校では先週の金曜日に皆さんの前で発表した内容を全国の学校に発表した。山梨県の発表場所は会場の後ろ端だったので、全力で呼びかけて聴衆を募った。どの学校もアピールしていて、徳島県の小学校では「阿波踊り」で生徒を集め注目を浴びていた。

○周囲に注目してもらうためには、待っているだけでは何も生まれず、自分たちから主体的にアピールしなければならないことを学んだ。

○午後は15グループに分かれて協議をした。その中で多くあがった意見は「情報を見極める」ということだった。自分一人の主観で判断したり、うわさやデマを流したり、信じたりすることはいじめにつながるのだということを全員で確認できた。ただし、ここで勘違いしてほしくないのが、情報が正しいとしてもそれにのり、仲間外れを作ってしまうことは絶対にしてはいけないということだ。

○いじめを解決するために、「正しい知識を持つことが必要」であることを学んだ。

○参加している生徒たちの様子や学んだこと

当日は初めて会った120人の前で発表したが、一切緊張はしなかった。その理由は当日の会場に集まった生徒たちは、「人の話をしっかり聞いてくれ、決して否定しない」ということを関わりの中で感じたからだ。

つまり、道志中学校でも前に出て表現することが苦手で緊張する人がいるが、そのような人の抵抗感を下げるためには、その場の環境や友人への接し方が重要だと改めて感じた。

○いじめの解消に向けて、情熱の高い生徒が圧倒的に多かった。出会った生徒の中には、「実際に友人がいじめられているときに、何もできなかった後悔から参加した」という生徒もいた。

○誰もが明るく友達のように接してくれたため、意見が出しやすかった。三贈会や若鮎祭などいろいろな学年と関わるときには意識したい。

○1, 2年生に伝えたいこと

いじめ防止に思いやりや人の良いところを見つける。あいさつなど普段の取り組みを向上していくことでいじめを予防していた。日常の良い生活・取り組みをつくることは、いじめ防止につながる。だから、掃除やあいさつなど普段の生活を大切にしたい。

あいさつでは、「友人や出会った人を認める」ということを目的としている学校も多かった。道志中学校でもあいさつについて「仲間を認める」という同じ価値観で取り組んで共通している部分も多かった。道志中学校の取り組みは、全国のいじめについて真剣に考える学校と似ている部分があった。

○他の学校の取り組み

- ・自分の学校のシンボルマークを、グッズとして身に着ける取り組みがあった。
- ・埼玉の大東小学校では、「いじめの知識に関する動画」を作ったり、いじめの防止に関する「話し合い」をしたり、「自分自身でいじめから身を守るための活動」が行われていた。道志中学校としても、小中合同で取り組めることだと思った。

○グループ討議で、「加害者にも不安やストレスがある」ということでいじめをしてしまうという意見

を聞き、加害者の心のケアなどを考えていくことが大切だと思った。

○横浜市の小田中学校では、「個性を認める・思いやる」というエコの視点でビニール傘のリサイクルなど環境に配慮したものを協力して作ることを「いじめ防止」につなげていた。一見、いじめ防止に関係のないようなことでも、いじめの防止につながることを学んだ。

生徒会顧問の「笠田先生」の感想

本校では、いじめの早期発見・未然防止、そして、「いじめの解決策に死を選択させない」ことを学校教育の最優先事項として取り組んでいます。今回のいじめサミットに参加しようと思ったきっかけは、「特色ある道志中学校の取り組みや考え方を、全国の中学校に知っていただきたい」。そして、「全国各地から集まった、いじめ防止を真剣に考えている学校の先生や生徒から刺激をもらい、道志中学校へ還元したい」と思い参加しました。

いじめサミットで学んだことの二つを紹介させていただきます。

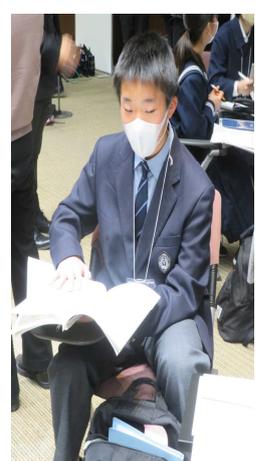
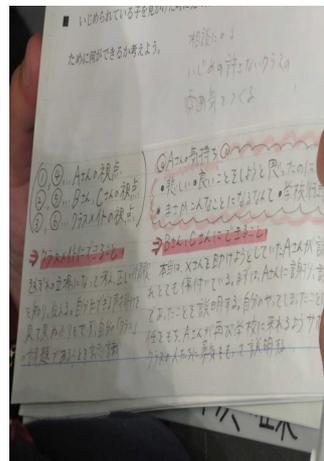
一つめは、「道志中学校で行っている取り組みや考え方に共通している学校が多かった」こと。そして、「道志中学校しか取り組んでいない」ことがあったことです。

ここから分かることは「道志中学校の進んでいる方向性は間違っていないこと」、「道志中学校にしかできないことがある」ということです。

二つめは、「教師と生徒が、多くの人から刺激をもらうことで成長できる」ということです。今回参加した生徒会本部の3名の生徒は、全国の生徒と交流することで、新たな価値観を得たり視野を広げたりしていました。そして、「それを道志の生徒に還元したい」という思いももったようです。そして、私たち教師も深い知識や考え方を知ることによって、教育の方法や手段を増やすことができました。一見、文部科学省で発表することは大変なことに思えます。しかし、「何事もチャレンジしなくては、自分自身を変えていくことができない」と今回のサミットに参加して感じました。

これからも道志中学校のためにできることを精一杯、頑張りたいと思います。

ICTを活用していた学校 千葉県松戸第四中 事前準備にも熱量が高い 私立藤嶺藤沢中



いじめ防止のために1・2年生が考えた対策

生徒からの現状に関する心配な意見

- 仲間に対して注意が出来ない
- 自分が嫌われることを恐れている
- 失敗が怖くて積極的に行動できない

上記の状態は、いじめの予防に関して心配があります。

自分の事として取り組みましょう。いじめ防止のポイントは傍観者の少なさです。

「自助」への対策

- 嫌だという自分の心に気づき、本音で誰かに相談すること。(黙っていては誰も気づかない)
- 自分の気持ちを発信する強さを持つ。
- 若鮎ノートに本音を発信する。
- 「自分の人生は自分で変えられる」という意識で、より良い選択や行動をする。
- 自分から様々な人に関わり合って、人間関係を広げていく。

※「いじめの解決に死を選択しないこと」や「いじめに関する様々な知識を得る」ことが重要です。

「共助」への対策

- あいさつ・返事・反応によって、つながりをつくる。
- 傍観者・黙認者にならない。
- 授業での話し合いで毎日取り組む。・挑戦すること・励ますこと・人をばかにしないこと
- 挑戦する人・失敗や困っている人をばかにしない集団づくりが大切。
- 何か気づいたら声をかけて話を聞く。
- 日頃から話題にして予防する。

「公助」への対策 ※先生への要望

- 毎日の若鮎ノートで助けを求める重要性を指導してほしい。
 - 山梨県の「きずなの日」を活用し、いじめの早期発見に生かして欲しい。
 - どの先生でも相談できる人間関係を創って欲しい。
- ※ 校長として上記に2点は徹底します。3点目は時間をかけて取り組みます。